

第2期常陸大宮市創生総合戦略  
令和2年度・令和3年度評価書

令和4年7月

常陸大宮市 政策審議室 企画政策課

## 目 次

本市の人口動向の状況について	1
第2期常陸大宮市創生総合戦略の評価について	2
基本方針1. しごとの創出・応援	2
基本方針2. 人の流れづくり	3
基本方針3. 結婚・主産・子育て応援	4
基本方針4. 魅力あるまちづくり	5
令和3年度 地方創生交付金事業等に係る評価書	6
令和3年度 地方創生応援税制活用事業評価書	7

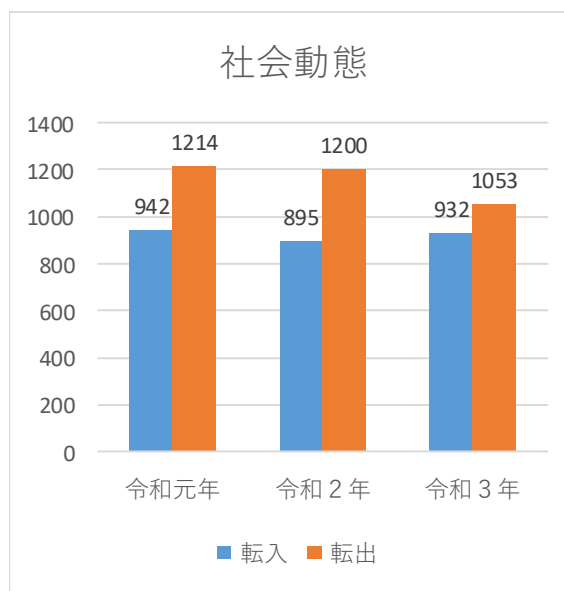
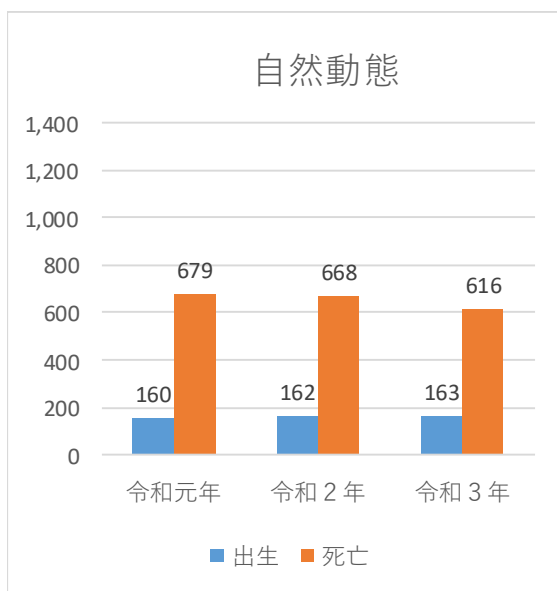
## 本市の人口動向の状況について

### 1 総人口の推移 各年 10 月 1 日現在（単位：人）

令和元年	令和 2 年（国勢調査）	令和 3 年
39,904	39,267	38,640
令和 4 年（5 月）		
38,219		

### 2 人口動態の推移 各年 1 月～12 月（単位：人）

	自然動態			社会動態			人口増減
	出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増	
令和元年	160	679	▲519	942	1,214	▲272	▲791
令和 2 年	162	668	▲506	895	1,200	▲305	▲811
令和 3 年	163	616	▲453	932	1,053	▲121	▲574



## 第2期常陸大宮市創生総合戦略の評価について

### 基本方針1. しごとの創出・応援

#### 1 取組の概要と評価

起業サポート事業において創業支援セミナーや創業支援事業費補助金の交付など、起業（創業）希望者への各種支援に取り組んだことから、関連するKPIは伸びている。

また、道の駅常陸大宮を中心として本市のPRを目的とするひたマルシェ交流事業の実施などにより、新型コロナウイルス感染症で落ち込んだ来客者数も回復してきている。

一方で、企業誘致の推進に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業との交渉を行えなかった。

#### 2 今後の取組方針

創業支援事業者である常陸大宮市商工会と連携し、創業希望者を増やすためのPRを積極的に進めていく。

また、新規就農者も増えていることや、食料需給率の向上の必要性などもあり、基幹産業である農業の推進が重要となっていることから、6次産業化の推進や、地域ブランドの創出を進めていく。また、常陸大宮市の特産物を広くPRする常陸大宮さん認証制度の取組を進めていく。

#### ○基本目標

基本目標	基準値	実績		目標値
	H28	R2	R3	R6
市内従業者数 ※経済センサス	15,763人	—	15,113人	16,600人

#### ○OKPI（重要業績評価指標）

KPI	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
新規創業・起業数（年間） ※特定創業支援事業による創業数	2件	3件	6件	9件
KPI	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
市内法人設立届出数（年間） ※法人の設立に関する届出件数	22件	7件	19件	30件

## 基本方針 2. 人の流れづくり

### 1 取組の概要と評価

新型コロナウイルス感染症対策のため、観光客入込客数は、大幅な減となった。また、秋田県大館市との友好都市交流事業や、地域間交流事業については実施することができなかった。

一方で、住宅取得奨励金の交付件数については伸びており、コロナ禍においても住宅建設が増加し、定住推進を着実に実施できている。

また、令和3年度には、サイクルツーリズムの促進に取り組み、市内の観光施設等28か所に自転車ラックを備えたサイクルサポートステーションを設置するなど、サイクルツーリズムの環境整備を進めている。

### 2 今後の取組方針

令和4年度からは「つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト」に参加し、茨城県や関係機関と連携し、移住促進に向けた積極的な情報発信や相談体制の強化を図る。

また、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつも、御前山ダムの湖面利用などの取組や、各種イベントの再開などにより、交流人口を増やしていく。

#### ○基本目標

基本目標	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
社会増減数（年間 1月～12月） ※茨城県常住人口調査	▲243人	▲305人	▲121人	▲50人

#### ○KPI（重要業績評価指標）

KPI	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
観光入込客数（年間） ※茨城県観光客動態調査報告	約144万人	約107万人	約111万人	約170万人
KPI	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
定住促進のための住宅取得奨励金 制度活用件数（年間）	92件	81件	95件	120件

### 基本方針 3. 結婚・出産・子育て応援

#### 1 取組の概要と評価

不妊治療への助成により、不妊治療を受ける夫婦が増加するとともに、学童保育の充実に努めることで、仕事をしながら安心して子育てができる環境の整備が進み、出生数を下げ止めることに繋がったと評価できる。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、小中学校への感染も広がり、一部の学校ではリモート学習の措置をとるなど児童生徒の学習面に対して影響が大きかったが、関連する KPI については、現状を維持できた。

#### 2 今後の取組方針

結婚を希望する若者の出会いの機会を増やすため、婚活イベントの開催や相談体制などの支援の充実に図っていくとともに、仕事と子育てを両立できる環境の向上のため、放課後などに子どもを預けられる体制の充実に図っていく。

また、児童生徒の学力向上のため、オンラインでの家庭学習ソフトの活用をするとともに、若手教職員の育成に力を入れていく。

#### ○基本目標

基本目標	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
出生数（年間 1月～12月） ※茨城県人口動態統計	226人	162人	163人	240人

#### ○KPI（重要業績評価指標）

KPI	基準値	実績		目標値
	H27	R2	R3	R6
有配偶率（20～39歳女性） ※国勢調査	45.20%	41.55%	41.55%	48.00%
KPI	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
子育て環境に対する満足度 （未就学児保護者） ※令和2年度まちづくりに対するアンケート調査	27.90%	31.70%	31.70%	33.00%
KPI	基準値	実績		目標値
	R1	R2	R3	R6
授業がわかりやすいと思う児童生徒の割合（小学生、中学生） ※文部科学省 全国学力・学習状況調査	78.10%	79.10%	80.25%	80%以上

## 基本方針 4. 魅力あるまちづくり

### 1 取組の概要と評価

各支所と公民館機能を統合した地域センターの設置により、地域拠点の充実を図った。また、医学部に通う学生への修学資金貸付けなどの医師確保対策により、常陸大宮市済生会病院の勤務医師の確保を進め、医療体制の向上を図ったことから、くらしの満足度のKPI 向上に寄与したと評価できる。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、文化やスポーツ関連のイベントが中止または、予定どおり開催が出来ず、また東京オリンピック・パラリンピック大会においてはパラオ共和国の事前キャンプが出来なかったことなどが影響し、若者のシビックプライドの向上に遅れが生じたと考えられる。今後東京オリンピック・パラリンピック大会を通して生まれた宮城県蔵王町やパラオ共和国との交流をはじめ、歴史や文化など、優れた地域資源を生かした取組を進めていく必要がある。

### 2 今後の取組方針

まちの機能の充実と安心な暮らしのため、常陸大宮駅周辺を暮らしやすい環境とするための取組を推進していく。地域の持続可能性を高めるためにも、維持・活性化に取り組んでいく。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を注視しつつも、本市のまちづくりの担い手の育成や、市民がまちづくりに参画しやすい協働の仕組みづくりを進める。

#### ○基本目標

基本目標	基準値	実績		目標値
		R1	R2	R3
住み続けたい市民の割合 ※令和2年度まちづくりに対するアンケート調査	44.50%	69.60%	69.60%	50.00%

#### ○OKPI（重要業績評価指標）

KPI	基準値	実績		目標値
	R1	R2	R3	R6
市の暮らしの満足度 ※令和2年度まちづくりに対するアンケート調査	63.10%	72.10%	72.10%	71.00%
KPI	基準値	実績		目標値
	R1	R2	R3	R6
地域の行事・活動への参加割合 ※令和2年度まちづくりに対するアンケート調査	66.50%	44.90%	44.90%	72.00%
KPI	基準値	実績		目標値
	H30	R2	R3	R6
若者のシビックプライド（市への愛着や誇り） ※令和2年度まちづくりに対するアンケート調査結果	77.90%	66.90%	66.90%	90.00%

担当部課等	地域創生部地域創生課
-------	------------

1 事業概要

事業名	いばらきサイクルツーリズム推進強化事業 (市事業名：自転車活用推進事業)		交付金等の種類 推進交付金	
当該年度概算事業費 ／当該年度概算事業費 決算額	概算事業1,896千円/概算事業費決算額2,516千円 (推進交付金対象経費 1,742,000円 交付額(対象事業費の1/2 871,000円))			
市総合戦略における 位置付け	基本方針	2. 人の流れづくり		
	施策	4. 関係人口の創出と観光・交流の促進		
	基本目標KPI	社会増減数		
		基準値	目標値	
		▲243人(平成30年：2018年)	▲50人(令和6年：2024年)	
	施策目標KPI	観光入込客数		
基準値		目標値		
約144万人(平成30年：2018年)		約170万人(令和6年：2024年)		
事業目的	近年、自転車を活用して地域を巡り、地域の魅力を体験するサイクルツーリズムの取組みが活発化している。本市においても、自転車活用の有効性などを広く市民に浸透させつつ、安全で快適な自転車利用の環境整備を進め、サイクルツーリズムの推進による交流人口の増加や地域の活性化を図る。			
事業期間	令和3年度～	完成時期(拠点)	-	
事業内容 (令和3年度)	市民の自転車利用の促進を図るため、チラシ、ポスター及びサイクリングマップの作成による啓発を行う。また、全県的なサイクルツーリズムの推進を進める県や奥久慈里山ヒルクライムルート利活用推進協議会と連携し、誘客促進や、情報発信のための事業を実施する。 ・サイクルサポートステーションの設置(駐車ラック、空気入れ、修理用工具の配備) ・奥久慈里山ヒルクライムルートのPR活動 ・市内サイクリングルートの策定及びPR活動 ・サイクリングマップ、ポスター、のぼり等の作成			
事業内容 (令和4年度)	県、奥久慈里山ヒルクライムルート利活用推進協議会と連携し、サイクルツーリズムの取組を実施する。 ・サイクルサポートステーションの設置(駐車ラック、空気入れ、修理用工具等の配備) ・奥久慈里山ヒルクライムルートのPR活動			

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況等

(1) KPIの達成状況

KPI項目		R3	R4	R5	R6
①サイクルサポートステーションの設置(令和3年度)	目標値	①20	②30	③50	④70
②市サイクリングコース走行回数(令和4年度～)	実績値	28	—	—	—

(2) 事業評価

事業の評価	事業の評価の理由及び課題
①期待した通りの成果	県や協議会と連携し、サイクルサポートステーションを市内28か所に設置して自転車の利用環境の整備を行うとともに、サイクリングコースマップの作成を行うなど、地域のサイクルツーリズムに係る情報発信を実施した。
③地方創生に効果があった	1. 自転車利用推進事業 ・サイクリングコースマップ等印刷 794,200円 2. 奥久慈里山ヒルクライムルート及び大洗・ひたちなか海浜シーサイドルート利活用推進協議会の運営のための負担金 200,000円

3 今後の取組

方針	主な取組
拡充	市外からのサイクリスト誘客や、市内のサイクリスト人口を増やすための整備を進めるとともに、初心者が気軽に自転車に乗る機会を設ける。



担当部課等	農林振興課
-------	-------

1 事業概要

事業名	道の駅常陸大宮遊具設置 (市事業名：道の駅常陸大宮管理事業)		交付金等の種類	
			企業版ふるさと納税	
事業費及び寄付額	予算額：16,000,000円 事業費：15,620,000円 当年度支払額：6,300,000円(前払い金) / 繰越 9,485,000円 精算額：9,320,000円(R4支払)  (寄付企業・寄付額) 株式会社 ピジョン 10,000,000円			
市総合戦略における位置付け	基本方針	3. 結婚・出産・子育て応援		
	施策	6. 出産・子育て応援		
	関連KPI等	基準値	目標値	
	子育て環境に対する満足度	27.9% (平成30年：2018年)	33.0% (令和6年：2024年)	
事業目的	道の駅常陸大宮(かわプラザ)の屋外広場に新たな遊具を設置することにより、子供連れの家族が訪れ、新たな交流人口の拡大と施設の利用促進を図る。			
事業期間	令和3年度～	完成時期(拠点)	-	
事業内容 (令和3年度)	道の駅常陸大宮にインクルーシブ遊具を設置する。 設置遊具 3基 ・ウイホッパー (シーソー) ・ホイールフェアルセル (回転遊具) ・トドラースイング (ブランコ)			
事業内容 (令和4年度)	道の駅常陸大宮にインクルーシブ遊具を設置する。 設置遊具 2基 ・モメンツコンピネーションSP (大型遊具) ・サーキットコース (ゴムチップ舗装) ・その他 (三輪車等)			

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況等

(1) KPIの達成状況

KPI項目		R3	R4	R5	R6
売上総額	目標値	444,000	444,000	444,000	444,000
	実績値	453,191			

(2) 事業評価

事業の評価	事業の評価の理由及び課題
②概ね期待通りの成果	・外国製受注生産品のため、遊具製作及び輸入に不測の日数を要し、繰越となったが、令和4年5月下旬には設置できた。
②地方創生に相当程度効果があった	
方針	拡充